

パネルディスカッション「千葉の防災教育の現在・未来」（概要メモ）

コーディネーター：林 春男（京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授）

パネリスト：菊池 貞介（千葉県立市川工業高等学校）

中野 直美（我孫子市立布佐南小学校）

駒村 武夫（松戸市中金杉自主防災組織防災本部長）

浅岡 隆（千葉県総務部副参事（兼）

消防地震防災課防災政策室長）

「千葉の防災教育の現在・未来」をテーマにパネルディスカッションが行われました。最初に参加されたパネリストの活動状況について紹介がなされた後、今後の展開及び問題点について論議が深められました。以下に、その概要を紹介します。

1. パネリストの活動状況について

各パネリストから、具体的な活動状態が紹介されました。主な点は次のとおりです。

- ・小学校における防災学習として、防災ゲームを通じ自分達の町は自分達で守ることの重要性、防災パンフ作りから危険予知活動（KYT）や日常のコミュニケーションの大切さ、地域防災マップ作り、ぼうさい探検隊等を通じての防災学習等の事例紹介等。（中野 直美氏）
- ・工業高校における住宅の耐震診断ボランティア活動の紹介、自治会連携型一斉簡易診断の事例、専門家である大工さん対象の公開実験などの防災教育を兼ねた学習活動など、専門を生かした学校の貢献活動が地域の専門家や行政の窓口への橋渡し役を担っていることなどを説明。（菊池 貞介氏）
- ・典型的な住宅街で年々減り続ける防災訓練参加者の現状をどのように立て直したかの実例紹介。5、6軒単位の共助グループを核とした防災訓練で参加者が飛躍的に向上したことの紹介。平日の昼間は自助・共助とも人手不足となるが、身近にいる中学生の知恵と力を地域防災力の一環とするために、中学区教育コミュニティ会議との連携活動紹介等。（駒村 武夫氏）
- ・千葉県の防災上の特性（大きな災害の経験がない、人口の急激な増加に伴う諸問題、海岸部津波の恐れ等）を踏まえ、防災教育の必要性を指摘。阪神大震災の教訓として、自助・共助が重要であること、自主防災組織の組織率向上と子供を基にしたコミュニティ作り（地域と学校の連携が必要）の紹介等。（浅岡 隆氏）

2. 活動を基にした未来について

これまでの活動を踏まえ、今後の展開について紹介がなされました。

- ・子供たちは想定される災害に遭遇することを踏まえ、子供と地域のコミュニケーション作りを進めたい。（中野 直美氏）
- ・専門学校として、教科書のみでない災害知識を伝えたい。教師の意識が変われば学校が変わる。多くの地域の力添えが欲しい。（菊池 貞介氏）
- ・地域連携を強め自主防災を作る過程で互いに必要とする関係を築き上げた。地域のふるさと化を推進したい。（駒村 武夫氏）

- ・防災教育に本腰を入れ、災害を知ってもらう活動を進める。学校及び地域の防災教育を進める。(浅岡 隆氏)

3. 会場からの質問について

会場参加者の方からも質問がありました。主なものは次のとおりです。

- ・町会を纏める上で、プライバシー問題をどのように解決できたか。
→ プライバシー問題は困難で辛い場面もあった。正面から受けて逃げないことが大切。
- ・災害対策コーディネーター教育を有効にして欲しい。県の人材育成の考えは。
→ 災害対策コーディネーターは災害時に行政とボランティアの間に入って要望を取り纏めるなどを期待。平常時においてもリーダーとしての活動を期待。

4. その他

- ・学校の重要性の観点から、学校における活動の問題点(先生の意識がまだ低い等)が述べられました。
- ・最後に、千葉県は近年人口が急増したいわゆる新興の県であり、しがらみに捕らわれず防災活動に積極的であること、学校の重要性が認識されており、地域の人との出会いがあり、防災教育の本当の学びがあることなどが指摘されました。さらに、人と人との協力を生み出していくこと、お互いにふるさとと思えるようになれば変わるとの感想が述べられました。